おちほ

http://ochiho.noor.jp/

第71号 平成23年11月15日　発行　社会福祉法人　椎の木会　**落穂寮**　発行者　太田正則

織姫様は王子様に会えたかな？

今年も落穂寮新人職員の恒例行事がありました。

毎年、利用者さんに七夕フェスティバルを楽しんでいただこうと、入職したての職員はあの手この手で考えます。

今年のテーマは「シンデレラ」。

豪華な衣装やセットでの雰囲気作りは言う事なし！の状態で女子利用者さんたちはかわいくて、綺麗な衣装を羨ましそうに眺め、男子利用者さん達は、魔法使いの魅力の虜になり、物語に引き込まれ楽しんでおられました。

舞台にかじりついて鑑賞されている利用者さんの姿を見ると、職員も夜な夜な準備に取り組んだ労が報われる気がします。

毎年、今ひとつな天気で会う事が出来ない織姫様と彦星様も、七夕を楽しむ利用者さんの笑顔で癒されたのではないかと思います。

われも紅

理事長　山下陽一

吾亦紅（われもこう）

落穂寮創設期の保母だった初田春枝さんは、四十五年前に亡くなった方ですが石山学園、近江学園の保母をしていました。

ある日の夜更け、夜尿起こしで子どもの部屋に入ると、寝ているはずの子どもがひとりいません。初田さんは落穂寮のあちこちを探しますが姿が見えません。そのときの様子が次のように記述されています。

お月さん見てたんや、と返事をします。
そして川辺で石を投げて遊んで帰ります。
うながして床に入れるだけで私の胸はなにかいっぱいになります。

この部分だけでは何のことかわからないかもしれませんが、創立から一九七二年ごろまで、落穂寮・一麦寮・近江学園は大津市石山南郷にありました。琵琶湖の南端から唯一流れ出る瀬田川は宇治川、淀川となって大阪湾に注ぎ込むのですが、琵琶湖の水位をコントロールする洗堰（あらいぜき）の五、六キロ下流に三施設が寄って建っていました。

夜尿起こしをする時間ですから、午後十時ごろのことでしょう。こっそり起き出した彼は、数百メートル先の瀬田川の川原に出て石投げをしていました。母親が子どもを迎えに行って一緒に石投げをした後、床につかせたというそれだけのことですが、彼女は胸がなにかでいっぱいになった、というわけです。まさに子を案じている慈しみ深い母親の優しさと、共に暮らす日々が穏やかに過ぎていくことへの喜びがあふれています。

彼女が近江学園の職員宿舎で亡くなったあと、追悼する文集（われも紅・一九六七年）が編まれましたがそのなかで糸賀先生は次のようなことを追悼されました。

初田さんは、成長した女子の生理を止める手術をしてはどうか、と糸賀先生に相談にいったそうですが、糸賀先生は、それは違う、と議論したそうです。初田さんは折れて「それが本当です」といってなみだぐみながら立ち去りました。今だったら大変な人権問題になりますが、一九五〇年代当時は優勢保護の観点から合法的に処置できました。

糸賀先生は彼女の葬礼に一句をささげました。

独り往く野の広がりや吾亦紅
一碧（いっぺき）

先生は彼女の人柄をぽたんとかしゃくやくといった人目を引く華やかなイメージではなく、秋の野のひろがりに咲く吾亦紅のようなひとだった、とされました。吾亦紅は分岐した茎先ひとつ一つにピーナツ大の濃い紫の実のような花をつけます。控えめで気後れ勝ちな雰囲気を持っています。糸賀先生のこの一句は、野にいっぱい広がっている中を、「独りで往ってしまった」という、もの悲しさ、寂寥感あふれた挽歌ともいえますが、さらに加えて、子どもへの視線がいつくしみあるなかに深き悲しみのかげがあった、と追懐しています。

初田さんの記録は色々な所に残っていますが、今の現場の人たちが深く感動した内容は個々人の記憶のみに留まっていて、記録としてはなかなか残り難いものです。残っていくものは「気持ち」だとか「感動」です。こういった感動を語り継ぐことは、後の人たちへの貴重な財産となり、これを残すにはどうしたらいいか、記録することの工夫が必要ではないかと思います。

あやしい！

田村先生の著作に、「忘れられた子等」（一九四二年）があります。教室での日々を興味深くユーモアを交えて書かれていますが、その中に、「信乃」という女児が登場します。同じクラスの子に妹がいて、学校の近くに住んでいるものだから、よくその子が教室に遊びに来ていました。

ところがその子が四歳のとき吹雪の晩に寒い寒いといいながら亡くなりました。谷村清吉先生はお悔やみ状を子どもたちに書かせてそれを持って先生一人がお供養にでかけました。

これからが「あやしい！」と思っているのですが、信乃は亡くなった「アカチャン」のお宅の門の外でもじもじしていたというのです。級友のおばちゃんがそれに気付いて、「どうしたんえ？」と尋ねると、「あてかておしょこさしてんか」といいました。おばさんは詰まる胸をおさえて信乃のお焼香を介添えしてちゃんと済ませた、という話を先生は後に聞き及びます。先生は「しまった！しまった！」と後悔します。このあたり胸が熱くなる様子で書かれています。

実はわたしは、この話はうますぎる、と思っています。ことばを獲得する、ということは自分の身の回りのことがかなり自覚できて少しずつことばが身に付くもので、数年前までそろばんをアカチャン代わりに背中にくくりつけ教室の内外をうろうろしていた子が、自分でお焼香させてくれ、などと思いが及ぶのだろうかと。ちょっとこの話は「あやしい！」。

生前の先生のお話で、戦争中、琵琶湖の湖面に月光が反射して空爆の標的になるから、ふたをするという計画があった、と話されました。当時はそんなことも考えていたのか、と素直に信じていたのですが、大津市に古くから住んでいる親戚があり、この話をすると、「知らんな、第一よう考えてみー」といわれ、「アッ、一杯食わされた！」と。

一粒の麦から

一麦寮の名前の由来について寮内で聞いたことがないのですが、聖書ではイエスのことばを次ぎにように伝えています。

一粒の麦もし地に落ちて死なずばただ一つにてあらん　死なば多くの実をむすぶべし
（ヨハネ　一二・二四）

これはイエスが十字架に架かることを予言して、イエスの犠牲による世の救済を説いたものとされています。このあたり私は教会に属していないので他の人に譲るとして、わたしは麦の一粒が土に根付いてどんどん増殖する「いのち」の連続性を読みます。

私自身四〇年以上前からあれこれ考えているのですが、今私が在るということはもちろん両親がありその前その前とたどれば二〇万年前のアフリカの女性に始まるらしいというのがゲノム研究者の仮説です。さらにたどって恐竜時代も私たちの祖先は生きていました。博物館で大型肉食恐竜の骨格の標本を見たことがありますが、見ただけで背筋が寒くなるほどゾーッとしました。これは当時の私がこんな大きく怖いやつらに追い回されていたことが今でもゲノムのなかに封じ込まれていて、それが今ゾーとさせるのではないかと実感しました。その前は魚類のようなもの、その前・その前とたどると、アメーバーのようで、その前になると生物とも無生物とも区分できないもの、その前になると、火の球状の地球に生息していたり、その原因となった隕石の中にいたり、宇宙に溢れていた分子であったり、その前は水素原子のようなものとして宇宙に拡がっていたのでしょう。

私の「いのち」はそこから始まっているのは間違いなく、今ここに私がいるのは数十億年の隔たった時間があっても、一瞬も一度も途切れたことことがない、ひとつながりである奇跡に唖然としました。

一粒の麦が大地に落ち常に新しい命を内に秘め殖え拡がりました。

今、あの原発事故を省みるとき、この状況から人間が破滅しないで進化する方向があるとしたら、それはなにか。

田村先生は「差ありて、別なし」とか「一つ一つ」というふうに「優しく・深く・面白く」説かれました。人の進化の方向を期待するなら「分け隔てではなく一体で不可分」であることを「自覚」しなければならないと、そしてその「自覚」こそがひとに健全な進化をもたらす鍵になる、と。

糸口は無限にある

施設長　太田正則

Aさんは、当時小学生で、自閉症候群の診断を受けていた。

年齢よりは小柄で細く多動で、すばしっこい子供だった。高い所を得意とし、嫌な事や苦手な事を要求されたり、その場に居たくないような環境（嫌いな音など）に置かれると二階建ての建物の屋根の上に上って時間が経つのを待っていた。職員が追いかけると、屋根伝いに移動し、屋根から屋根へジャンプして飛び移ったり、雨樋を掴んで飛び移ったり、はたまた電線を綱渡り状態で移動し、わずか5㎝ほどの窓のサンを伝って職員から逃れていた。まるでアクション映画さながらの光景だった。

毎日の食事は、主食（白米）はそのままではあまり食べなかった。野菜は味付けや調理方法によっては口にしたが食べられるものは限られていた。排尿はトイレで何とかすることができたが、排便はトイレですることは少なく、側溝やプールサイドからプールの中へ排出することが多かった。水遊びが大好きで、洗面所で洗面器を持ち出して蛇口をひねり、水をためては手ですくって口に入れ、勢いよく吐き出したり、洗面器で頭から水をかぶったり、を繰り返していた。真冬の中の冷たい水でも関係なかった。これらの生活活動や余暇（?）活動に対する職員の働きかけには『ガラスを割る・TVを引き落とす・噛みつく・蹴る』といった行動で抵抗することが多かった。また、睡眠のリズムがなかなか整わず、夜中や早朝に窓から出て事務室や調理室の小窓を割って侵入し、冷蔵庫や食材室を物色して中の物を食べるということを繰り返していた。時には屋根伝いに移動して、二階にある職員の部屋の窓から侵入して物色することもあった。

どこかに必ずある原因

誰もが何らかの目的（原因）を持って行動を起こします。これは知的・発達・情緒などに障がいを持っていても、持っていなくても同じです。ただ、その目的（原因）がなかなか見つからないところに難しさがあるのです。

彼の場合は

①なぜガラスを割るのか

②なぜ破壊侵入するのか

この2点について、行動が起こるとき（日）と起こらない時（日）の違いを比較して原因を探すため、二十四時間の記録をとることにしました。睡眠時間、食事内容と食事量、行動を起こした時の職員の声のかけ方、前後の様子、職員の感情や考察などの客観的な分析など、学校での様子も合わせてわかるよう協力を求め、彼の一日の様子が記録を見れば全てわかるというものでした。職員によって観察力や考察・分析力はまちまちですが、高いそれらを持った職員の記録を読むことで、ほかの職員の力量も向上し、チーム全体のレベルが向上しました。

見えてきたもの

二十四時間の記録と行動観察の繰り返しによる考察から、屋根に上がる行動は、他人の介入がなくなり、精神安定に繋がる彼の避難場所になっていたため、特に問題がなければ見守ることにしました。

①については、

・慣れない職員の声掛けによる不安や緊張を表現

・禁止句からくるフラッシュバック

②については、

・偏食による空腹

と分析し、それに対応した支援方法をとることにしました。

【慣れない職員や実習生は声掛けしないようにし、慣れた職員が対応して緊張する場面を作らない。「ダメ」「あかん」「やめて」などの言葉は使わず、事前なら「壊れるよ」などの言葉掛けにし、事後なら「片付けましょう」で終え、負の強化をしない。夕食には、事前に彼の好みそうなおかずのお替り分を取り置きし、それを目的に必ず主食を二膳食べられるように準備し、どれだけ時間をかけても必ず完食していただく。】

食事については、時には一七時半から二三時頃までかけて食べることもありましたが、一対一で職員がついたことで逆に職員との関係もつくようになり、少しずつ行動は減少しました。しかし破壊行動については、職員の入れ替わりによる緊張や、てんかん発作の影響などから、なかなか落ち着くことはありませんでした。

つまり、彼らの行動は特性から派生したものであり、何らかの方法でなくなるものではないことを表しています。

一人一人の特性に応じた暮らしやすい環境を提供するには多くの課題がありますが、みなさんが彼らのことを知り、理解することで、人的環境から整えられればと思います。

☆レクリエーション大会☆ 2011

徒競走

十月九日、落穂寮・レクリエーション大会が行われました。去年はあいにくの雨のため、中止になりましたが、今年は晴天に恵まれ、無事、開催することができました。

徒競走は、利用者さん全員が参加され、マイペースに歩く方やかなりのスピードを出して走る方と、「がんばれー」の声援で盛り上がっていました。今年はショートステイの方や実習生、老若とりまぜた新人職員、去年レクリエーション大会を経験できなかった二年目の職員、さらに保護者の方々やホームの方々など…多くの方に参加して頂き大いに盛り上がりました。ありがとうございました。

徒競走の後は美味しくカレーを何杯もおかわりをされた方もいらっしゃったのではないでしょうか。その後は、紅白対抗、綱引き、玉入れ、ダンスの順に行われ、職員が当日までに手間暇かけて作り上げた競技がほとんどなので、利用者さんや参加者の方々に楽しんで頂けたのではと思います。

最後の片付けは参加者の皆様にも手伝って頂き大いに助かりました。ありがとうございました。二年ぶりのレクリエーション大会でしたが、皆さん楽しめたでしょうか？

玉入れ

紅白対抗

綱引き

地蔵盆

今年の地蔵盆は昨年の暑さはどこへやら・・・と思う程涼しい中での行事となりました。昨年の暑さのことを思うと職員は心配していましたが一安心でした。

準備をしている職員を横目に、利用者さんもソワソワ。声掛けと共に一斉に事務所前のお地蔵さんの所へと集まって来られました。今年は涼しいということもあり、一人一人の利用者さんがゆっくりとお地蔵さんに『今年も元気に過ごせますように・・・』とお祈りしておられました。（中にはお供え物の方が気になる方もおられたようですが・・・（笑））皆さんの願いもお地蔵さんに届いたと思います。

この一年も健康に、そしてまた来年も皆さん揃って元気にお参りできますように。

今年も一年間。落穂寮を見守っていてください。

▲お地蔵さんの前に全員集合～!!

▲みなさん一緒に『ナムナムナム～』

納涼祭

今年の納涼祭は暑くもなく過ごしやすい天候に恵まれての開催となりました!!利用者さんは、カワイイ甚平さんに着替えて準備万端。屋台や盆踊り、花火の催し物に今年は「魚釣りゲーム」も新しく加わり、みなさん楽しまれておられました。屋台のメニューは、おにぎり、焼きうどん、フランクフルト、焼きとうもろこし、焼き鳥といった品々で、豪華なメニューをみなさんとてもおいしそうにペロリと完食されておられました♥夏の風物詩!!花火も夜空にきれいに輝き、利用者さん職員共にキラキラと感動の眼差しで見つめておられました。楽しく素敵な夜となりました☆

▲お腹一杯いただきました!!

▲楽しいゲームとおいしいご飯 (^o^)

▲みんな楽しい盆踊り～♪

お　ち　ほ

▲うまい！

▲お腹いっぱいや～

男子棟 はんごうすいさん

今年の男子棟飯盒炊爨は見事な程の晴天でした。午前と午後ともにプールを楽しみ、昼食は豪華に焼肉丼とフルーツたっぷりのヨーグルト！

プールでは、はしゃいで楽しむ方もいれば、反対に断固として入られない方もいました。泳ぐ人、水面の煌めきを見て楽しむ人など、人それぞれで「入水」だけがプールの楽しみ方ではないのだと、利用者さんに気付かされました。

午前中のプールもあってかお腹が空いていた様で、焼肉丼はすごい勢いで完食されていました。プールでの興奮とお腹が満たされたことで、眠気に誘われた方もいた様です。

食べ終わってからの「美味しかった」を、口では語らず、笑顔で表現されていた利用者さん。そんな満面の笑顔が見られて職員は嬉しかったです。

来年も晴れるといいですね。

女子棟 飯盒炊さん

七月二十日は、女子棟飯盒炊さんがありました。今年も台風による雨の影響で寮内体育館での行事となりました。

あいにくの天候ではありましたが、いつもと違った雰囲気での昼食、そしてメインのＢＢＱを前にして皆さんとても嬉しそうにしておられました。

たくさん用意されていたメニューもあっという間に無くなっていき、お腹も一杯！大満足の飯盒炊さんとなりました。

食後は、トランポリンをしたり、座って過ごされたりとのんびりタイム。おやつに杏仁豆腐を食べて締めています。

寮内ではありましたが、美味しいご飯を食べて楽しむ事ができました。

来年こそは、良い天気に恵まれますように…。

▲沢山食べてお腹一杯!!

☆お誕生日会☆ Happy! Birthday

九月二十五日、女子棟メンバーで棟内にてバースデーパーティーをしました。

今回は、七・八・九月生まれの方で、奈々さん、桜さん、孝子さん、市子さん、綾子さんの五名の方達が誕生日を迎えられました。

二十人前の大きな大きなケーキとケーキの形をした可愛い絵を前にされ、五名共ニコニコとても嬉しそうにしておられました。

皆でバースデーの歌をうたって、いよいよケーキ入刀！自分の前に大きなケーキが運ばれて来ると、皆さん目を輝かせておられました♥

五名の方達だけでなく、皆さんに笑顔で楽しまれたバースデーパーティーとなりました。

また次回のバースデーを楽しみに…

☆素敵な一年になりますように。

きらめきサマーフェスタ!! inじゅらくの里

夏真っ盛りの八月七日に、じゅらくの里できらめきサマーフェスタが行われました。

何かを提供するのは難しいが、食べて貢献し楽しもう!と、四名の利用者さんと食いしん坊の四名の職員はわくわくした気持ちで参加しました。

ザ・祭りといった食べ物や、盆踊り、レーザー花火を見ることができ、利用者さんも興味津々で眺めておられました。

今後もできる限り、地域の行事に参加し、皆様と関わりを持って行けたらと思います。よろしくお願いします。

▼ペットボトルタワーの前でロマンチックにパチリ!!

▲キレイだなぁ

滋賀県総合教育センター 新任研修会

秋の涼しさが目立ち始めた十月四日に、滋賀県総合教育センターから特別支援学校新規採用教員の方々十一名が障害者支援施設での現地研修に来られ、落穂寮の利用者さんと一緒に一日を過ごされました。

日頃、関わっておられる方と、年齢や障がいが違い、始めは戸惑っておられる様子でしたが、さすが先生方です。戸惑いながらも、うまく利用者さんの想いを汲みとり、目の前の方に必要な支援が何かを見抜く力が長けておられました。

教育と福祉と違う分野ではあるものの、特別な支援を必要とされる方と向き合う共通点がある者同士交流できた事で、自分たちに求められる事や課題に気づく事が出来たように感じます。

今後もこの縁を大切にしていきたいと思います。

ご協力ありがとうございます

ご協力ありがとうございます

社会福祉法人椎の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。今後も変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。（敬称略）

寄付金

シガ技研

物品の寄付

信基金属

湖南市老人クラブ連合会

原田　隆和

ありがとうございました。

泉

▼十月に行われたレクリエーション大会へ参加された皆様、ご協力ありがとうございました。来寮された皆様はお気づきになったと思いますが、落穂寮は現在工事中です。また工事が完成すれば誌面でお伝えしたいと思います。

▼東日本大震災が起きてから、最初の冬が来ようとしています。寒さの厳しい地域ですから、被災された方々の健康状態が心配されます。落穂寮からも七月から九月にかけて四名の職員が被災地支援ということで宮城県を中心に派遣されました。震災後、数ヶ月経ってからの派遣でしたが、現地の状況は想像以上のものでした。数年でどうにかなるものではありません。腰を据えた長期的な支援が必要です。我々には何が出来るのかをこれからも考えていきたいと思います。

木言（こと）

そろそろ冬支度を始めましょうか。まずは葉を赤に黄色に染め上げて。これが落ちれば私の冬支度はお仕舞。でも。お隣の木は、冬の間も葉は落ちず青々としたまま。それでも内では同じように春への準備が始まっています。そう、見える姿が違うだけ。春を待つ気持ちにみんな変わりはないのです。